

令和7年度地域支援センターあいづ特別支援教育研修会を実施しました

8月4日(月)に、会津地区の幼稚園・保育所(園)・こども園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・特別支援学校の先生方、関係機関の職員の方を対象に、令和7年度地域支援センターあいづ特別支援教育研修会を実施しました。

今年度は植草学園大学発達教育学部特命教授の佐藤 慎二先生を講師にお迎えし、『「気になる」子どもをつつみこむインクルーシブ教育・保育の実際～障害疑似体験や学級づくりに役立つ楽しい演習を交えながら～』と題して、御講演をいただきました。

本講演は佐藤先生のハンカチを使ったマジックでスタート。会場が一瞬にして佐藤先生のお話やひとつひとつの動きに惹きつけられました。講演は2時間ありましたが、終了後、参加された先生方からは「あっという間の講演(時間)だった。」という感想が聞かれるほどでした。

講演の中で、“障がいは「ある・なし」ではなく、「誰もがもつ傾向・特徴の大小、強弱、濃淡」である”というお話がありました。普段、幼児児童生徒とかかわっている者として、どうしても集団の中にいる「気になる子」への指導や支援のみに意識を向けてしまいがちですが、「気になる子」に必要な「ないと困る」支援は、ほかの子ども、ときには大人にとっても「便利で役に立つ」支援でもあり、その結果、集団全体が過ごしやすく・学びやすくなる環境を整えることが出来る、それがユニバーサルデザイン化された実践であり、インクルーシブ保育・教育であることを具体的な実践例を交えながらお話いただきました。また、幼児児童生徒の困り感を実際に体験し、「記憶の箱」に視覚的、聴覚的情報をひとつずつ丁寧にに入れていく支援の方法、感覚器官を複数活用する学習方法、問題行動や暴言を減らしたいときに叱るのではなく、問題行動が起こっていない状況をほめる、集団全体で温かな言葉を増やすという「逆転の発想」というお話もありました。

約2時間の講演中、佐藤先生が考案された「自分ほめほめジャンケン」や「あいさつ拍手」、「ラッキーセブン」など、すぐにまねして実践できそうなマジックやミニネタ、手遊びも次々と教えていただきました。佐藤先生の御指導のもと、隣り合った席の方と楽しく実践されていた先生方の笑顔がとても印象的でした。マジックやミニネタは動画サイト YouTube の『簡単マジック・手遊びシアター』にも掲載されているとのことですので、みなさんもぜひ参考になさってください。

本研修会には酷暑の中、会津地域から70名の先生方にご参加いただきました。参加された先生方には、今回の内容を各園・各学校・各所属団体で共有し、日々の指導支援の参考にしていただければと思います。

今後も地域支援センターあいづでは地域のニーズに応じた支援に努めてまいります。



【講演会の様子】



講演会は「ハンカチで接続テスト(動くハンカチ)」でスタート。
会津支援学校教員60名も別室で視聴しており、リモート会場
ともしっかり接続できました。

「ほめほめジャンケン」中の一コマ
です。「じゃんけんぽん!」「わたしの
いいところは…。」



時間の感覚について体験しています。佐藤先生より
「時計を見ないで1分経過したと思ったら座ってください。」という指示が出ています。早い方は40秒ほどで、
ゆっくりな方は1分20秒経過してから着席されました。



「ラッキーファイブ」は二人一組でじゃんけんをします。0・1・2・3・4・5のなかから好きな数を指で表します。お互いに出した数字を足して5になったら「ラッキー！」



書くことの困難さを体験しています。「利き手とは反対の手で、漢字で名前を書いてください。」という指示が出ています。佐藤先生からは、先生方の書きにくさを分かっている、なお、「ほら早く。」「しっかり書いて。」との指示がとびます。私たちの日々の実践で振り返るべき点が見つかりそうです。



ミニネタ「身体で漢字」を体験中です。
どんな漢字になったかな。



ミニネタ「ET(いい友達)になろう」を体験中です。お隣の方と協力して、指先でペンを支えます。目を閉じたままで、できるでしょうか。さらに息を合わせて立ち上がる指示も出ました。参加された先生方の楽しそうな顔が印象的です。



質問にも丁寧にお答え
いただきました。

